

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学概論 2	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館資料としての考古資料の保存と、公開されるまでについて学ぶ。考古資料の取り扱いや公開・活用について学習し、考古資料展示の実例に触れ、展示される考古資料について理解を深める。展示に必要な日本考古学の成果についても紹介する。遺跡や出土資料が展示・活用される実例を中心に講義する。	【実務経験】博物館における実務経験を活かして、展示公開される考古資料に、なるべくたくさんふれられるような授業を行います。
到達目標	考古学資料の展示について理解できる。 展示された考古資料について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・考古学の定義と研究領域	文献参照
	2	考古学の歴史	文献参照
	3	考古学の理論①：型式学と層位学	文献参照
	4	考古学の理論②：絶対年代と相対年代と編年	文献参照
	5	多様な考古資料①：遺跡、遺構	文献参照
	6	多様な考古資料②：遺物	文献参照
	7	遺跡の公開と修理	文献参照
	8	遺物の保存処理	文献参照
	9	解説シートの作成	中間課題提出
	10	発掘報告書の見方と遺物収納、貸し出し、閲覧	文献参照
	11	発掘調査について	文献参照
	12	資料整理について	文献参照
	13	考古学の諸分野と関連科学	文献参照
14	考古資料の収集と関連法規、遺跡の管理とマネジメント	文献参照	
15	遺跡公開・活用とパブリックアーケオロジ	文献参照	
16	レポート	期末課題提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献①鈴木公雄1988年『考古学入門』東京大学出版会。②松田陽・岡村勝行2012年『入門パブリック・アーケオロジ』同成社。③澤村明2011年『遺跡と観光（市民の考古学）』同成社。④新泉社『シリーズ 遺跡を学ぶ』。⑤文化庁記念物課2010年『発掘調査の手引き』同成社。		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・提出する感想と課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「考古学概論」を事前に受講しているとより理解が早い。但し、受講を前提とせず講義の中で随時補足説明を加え、これらの科目を受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。なお、受講していない学生は文献①を事前に読むことを推奨する。		
評価	中間「遺物解説シート」・期末課題「遺跡紹介リーフレット」（80%）。平常点（20%）。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究によって得られた研究成果を広く身につけ、考古学調査を紹介できる能力を高める。 関連科目は「考古学概論」「沖縄の考古学」。上位科目としては「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館概論	後期	土6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲福 政斉	1年	毎回の授業終了後、教室において対応する。	

学びの準備	ねらい 本科目は、博物館の存立の意義や機能、館種の分類をはじめ、博物館の歴史、学芸員の役割や博物館関係法規、博物館倫理といった、博物館学芸員として欠くことのできない、博物館学の中でも最も基礎的な事項の理解をねらいとする。	メッセージ 本科目は、博物館学の概論として、学芸員養成科目全体を俯瞰し、相互の関連等にも意を払いつつ授業を進める。また、博物館現場の今日的な実情や課題等も、授業内容に随時反映させていく。
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館の存立の意義や機能、館種の分類など、博物館についての基礎的な知識を習得する。 ■ 世界、日本、沖縄の博物館の歴史について、その概要を習得する。 ■ 博物館法および関連法規等について学び、わが国における博物館の位置づけを理解する。 ■ 博物館の業務に関わる者が、職務を遂行するうえで常に念頭に置くべき職業倫理について理解する。 ■ 学芸員に求められる資質である、情報の収集と整理、これにもとづく理論的な分析や考察を行う能力を身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	博物館概論について	館園の見学、関連資料や情報の収集
	2	博物館とは — 博物館について学ぶにあたって —	同上
	3	博物館学の歴史と課題	同上
	4	博物館の機能と分類	同上
	5	世界の博物館史	同上
	6	日本の博物館史	同上
	7	沖縄の博物館史	同上
	8	博物館法 逐条解説 ① — 法制定の目的・博物館の定義と事業 —	博物館法および関連法規等の確認
	9	博物館法 逐条解説 ② — 学芸員・博物館の設置及び運営上望ましい基準 —	同上
	10	博物館法 逐条解説 ③ — 博物館の評価・博物館の登録制度 —	同上
	11	博物館法 逐条解説 ④ — 公立博物館 —	同上
	12	博物館法 逐条解説 ⑤ — 私立博物館・博物館相当施設 —	同上
	13	博物館と学芸員の職業倫理	博物館に関する倫理規定等の確認
	14	期末テスト(博物館法について)	期末テスト出題範囲の学習
15	ふたたび博物館とは(期末テストの解答解説)	授業内容のまとめ	
16	まとめ	同上	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> ■ テキストは特に指定しない。レジュメおよび博物関連法規等の資料を配布し、これらを用い授業を進める。 ■ 自主学習および博物館を見学する際に参考となる図書として、次のものを掲げておく。 <ol style="list-style-type: none"> ① 全国大学博物館講座協議会西日本部会編 『概説 博物館学』 2002年 芙蓉書房出版 ② 水藤真 『博物館を考える—新しい博物館学の模索』 1998年 山川出版社 ③ 沖縄県博物館協会編 『沖縄の博物館ガイド』 2008年 編集工房東洋企画 ④ 中村浩・池田榮史 『ぶらりあるき沖縄・奄美の博物館』 2014年 芙蓉書房出版
-------	---

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> ■ 配布するレジュメや資料の内容のほか、特に重要と思われる点は各自でまとめ、理解を深めるよう心がけること。情報の的確な収集と整理、これにもとづいた理論的な分析と考察は、学芸員に求められる重要な資質である。 ■ 可能なかぎり博物館に足を運び、展示はもとより施設、設備等についても見聞する機会を多くもつよう心がけること。百聞は一見に如かずである。 ■ 授業への欠席および遅刻は減点の対象とする。また、課題の提出期限は厳守のこと（締切後に提出されたものは受理しない）。
-------	---

学びの実践	評価 本科目の成績は、授業への参加度30%（ミニテスト等を実施）、期末テスト（博物館法に関するもの）30%、レポート（各自博物館を見学したうえで論述するもの）40%の割合で評価する。 なお、詳細については初回授業時に説明を行う。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館概論は、博物館学芸員資格を取得するうえで最も基礎的な事項を取り扱う科目である。本科目で得た知識をふまえつつ、他の博物館学芸員資格関連科目を履修してもらいたい。 ■ 本科目で取り扱う博物館法および関係法規等は随時改正が行われている。本科目の履修後も折にふれ最新の条文によりその内容を確認しつつ、他の関連科目の学習に臨んでもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館学史	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 明子	2年	ptt843@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 博物館について、博物館の成り立ちや博物館学の流れを知るとともに、表から見える活動だけではなく、保存や研究といった博物館の土台を支える学芸員の仕事や博物館に関わる人びと、場所の果たす役割等についても学ぶ。	メッセージ 各講義の内容と関連する博物館や美術館についても紹介していきます。できるだけ博物館の多様性や可能性について、興味深く感じ取れるようにしたいと思います。
	到達目標 博物館を来館者として外から眺めるのではなく、博物館の成り立ちを知り、学芸員の表からでは見えづらい仕事について学ぶことにより、学芸員に必要な、内から博物館をみる視点を養うことを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランス	シラバスをよく読むこと
	2	インターネットを使って博物館を楽しむ	ネット博物館プログラムを体験
3	博物館をめぐる問題・博物館のこれからを考える（1）	博物館の問題をレポートに書く	
4	博物館をめぐる問題・博物館のこれからを考える（2）	博物館の問題をレポートに書く	
5	博物館の役割・機能 資料を保存する	モノを調査する	
6	博物館学とは／博物館の歴史：西洋（1）	課題に答える	
7	博物館の歴史：西洋（2）	課題に答える	
8	博物館の歴史：日本（1）	課題に答える	
9	博物館の歴史：日本（2）	課題に答える	
10	博物館のはじまり：沖縄	課題に答える	
11	博物館学史（1）博物館学の発展：欧米	課題に答える	
12	博物館学史（2）博物館学の発展：日本	課題に答える	
13	博物館学史（3）博物館を創ってきた人びと（1）	課題に答える	
14	博物館学史（4）博物館を創ってきた人びと（2）	課題に答える	
15	博物館学史（5）博物館を創ってきた人びと（3）	期末レポート作成	
16	まとめ	期末レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 講義ごとにプリントを配布する。参考文献は講義ごとに関連する文献を紹介する。		
	学びの手立て 普段から積極的に博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、関心を持っておくこと。遅刻や私語、授業中の態度、携帯電話のマナー等に気をつけ、常識ある態度でのぞむこと。原則として欠席はいかなる理由であっても欠席として扱う。（ただし伝染病による出席停止や忌引き、実習等に関する公欠の場合には、相談・調整により対応を検討する。）		
	評価 コメント票（25%）講義毎に感想や意見のフィードバックを行う。1回毎に評価する。 課題（45%）課題に対し、的確にテーマを捉え、自分の考えや意見をまとめているかを評価する。 期末レポート（30%）これまで学んできたことや博物館体験等をふまえ、具体的に自分の感じたことや考えたことをまとめているかを評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 博物館学関連の科目。引き続き、多様な分野の博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、さらに見聞を深める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館学評論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 明子	2年	ptt843@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 博物館とはどのようなものか。博物館体験は私たちにとって、何をもちたらずのか。博物館について主に来館者の視点から概観し、多角的に博物館を捉えることを目指す。博物館を取り巻く状況や問題点、課題等について、実際の博物館体験を元にしながらかえる。	メッセージ 自分自身の博物館体験を振り返りながら、博物館について考えていきます。講義や博物館見学を通して、自分では気づかなかったことや一人では見えにくいことが発見できるかもしれません。来館者の視点を考えることは、博物館の活動を考える上でとても大切なことです。
	到達目標 博物館体験について、「博物館へ行く前に」「博物館の中で」「博物館体験の後で」の3段階に分け、来館者の動きや博物館での学び、記憶について考えていく。それらを元に、博物館を評価する基準を考え、実際に個人で博物館を見学してもらい。博物館体験を通して、来館者にとって必要なことはどのようなことなのか、来館者の目を通して見える博物館について考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要説明	シラバスをよく読むこと
	2	博物館を評価する	レジメを良く読み、課題に取り組む
	3	博物館体験：博物館へ行く前に（1）	レジメを良く読み、課題に取り組む
	4	博物館体験：博物館へ行く前に（2）	レジメを良く読み、課題に取り組む
	5	博物館体験：博物館へ行く前に（3）	博物館見学
	6	博物館体験：博物館の中で（1）	レジメを良く読み、課題に取り組む
	7	博物館体験：博物館の中で（2）	レジメを良く読み、課題に取り組む
	8	博物館体験：博物館の中で（3）	レジメを良く読み、課題に取り組む
9	博物館体験：博物館の中で（4）	レジメを良く読み、課題に取り組む	
10	博物館体験：博物館体験の後で（1）	レジメを良く読み、課題に取り組む	
11	博物館体験：博物館体験の後で（2）	博物館を評価する基準を考える1	
12	博物館を評価する基準を考える	博物館を評価する基準を考える2	
13	大学博物館	大学博物館について調べる	
14	博物館体験を創造する	期末レポート作成	
15	博物館体験	期末レポート作成	
16	博物館体験を振り返って	期末レポート提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義毎に資料を送付する。 参考文献：『博物館体験 学芸員のための視点』 ジョン・H・フォーク／リン・D・ディアーキング・著／高橋順一・訳／雄山閣／1996年		
	学びの手立て 普段から博物館等へ足を運び、関心を持っておくこと。1/3以上の欠席は学則により不可になる。公欠による欠席や事前に欠席することがわかっている場合には、相談すること。		
	評価 コメント、課題（70%）講義毎に課題を設定する。資料を読み、課題の意図を考えて理解した上で、自分の考えや感想等をまとめる。1回毎に評価する。 期末レポート（30%）各自で博物館へ行き、体験したことを講義の内容を踏まえた上で、レポートにまとめる。詳細については、今後別途提示する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 博物館学関連の科目。引き続き、多様な分野の博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、さらに見聞を深める。
-------	--

※ポリシーとの関連性 博物館法に基づき、学芸員が利用者の思考とその行為の時間を提供し、国民の社会形成に必要な資質の理解を深める。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 博物館教育論	期別 後期	曜日・時限 土 4	単位 2
	担当者 -前田 一舟	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ ppt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、博物館における教育とは何かを県内外の事例より学ぶ。それらと同時に学芸員が利用者の為に果たす役割等を探り、学芸員の資質を養うことをねらいとする。	メッセージ 近年、学芸員には調査研究の姿勢や展示だけでなく、利用者の学びを促す仕組みも求められている。そこで、どのように利用者の思考とその行為の時間を提供するのを実体験や先行研究等の事例より自主学習を通して学修していく。
	到達目標 博物館は、教育基本法の改正に伴い生涯学習の理念等が盛り込まれ、その実現を図る為、現代社会のニーズに対応した教育活動の場が進められている。その為、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性とその学習への活用が強く求められている。地域に根ざした博物館と学芸員の果たす役割は、地域とのリレーションシップづくりが不可欠であり、知的発見の場として、さらに学習の成果の活用という教育活動が重要視されなければならない。講義で取り扱う内容は、知的発見の場を支えていく調査研究をはじめ、その成果をもとに、どのような手法で学校教育と生涯学習等へ活用できるか、そして知の学びを通してどのように地域産業に結びつけられるかを博物館の現場より事例を取り上げていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスの説明と博物館教育の体験談（特）
	2	学生からみた博物館の印象とは？（特）
	3	人の学びの起こる瞬間（特）
	4	生涯学習社会における博物館の使命－教育と学びの姿勢－（特）
	5	博物館における社会的・環境的課題の役割とその教育活動（特）
	6	学校と博物館の役割（特）
	7	「みる・かんがえる・はなす・きく」を促す仕組み（特）
	8	展示で学びをひきだす（特）
	9	チラシとポスターから始める学びの展開（特）
	10	風景をデザインする教育（特）
	11	遊びから学ぶ構想と企画のカー地域資源・教育資源・産業資源－（特）
	12	博物館の内と外を生かす学習プログラム〔事例：ジャンク博士〕（特）
	13	モノとヒトを生かす学習プログラム〔事例：船の模型づくり編〕（特）
	14	博物館における学びのデザイン（特）
	15	利用者の思考とその行為の時間プログラム（1）〔発表：講評〕（特）
16	利用者の思考とその行為の時間プログラム（2）〔発表：講評・まとめ〕（特）	
		時間外学習の内容
		自主学習①利用者を分析する
		自主学習②人はなぜ学ぶのか
		博物館法及びその関連法の把握
		自主学習③社会的課題を探る
		自主学習④学習指導要領の把握
		自主学習⑤教育プログラムを探す
		自主学習⑥印象に残った展示は？
		自主学習⑦チラシ等の調査
		自主学習⑧自分が好きな風景
		自主学習⑨地域資源を分析する
		自主学習⑩教育プログラムを探す
		自主学習⑪教育プログラムを探す
		発表資料作成①
		発表資料作成②
		発表資料作成③とその整理
		整理と新たな課題の発見

実践	テキスト・参考文献・資料など ・毎回プリントを配布する。 ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 ①ジョージ・E.ハイン著、鷹野光行監訳、『博物館で学ぶ』、同成社、2010年。 ②フォーク、ディーアキング共著、高橋純一訳、『博物館体験－学芸員のための視点－』、雄山閣、1996年。 ③布谷和夫、『博物館の理念と運営－利用者主体の博物館学－』、雄山閣、2005年。
----	---

学びの手立て	【学びの手立て】授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。また、授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等も要する。 【履修の心構え】授業の進行によっては博物館に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、オンラインの場合は顔の表示も条件とする。そして、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けられないので十分に留意すること。
--------	--

評価	・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求め、電子メールで提出とする。その評価を以下のとおり設定する。 ・記述課題（50%）、学習課題（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・出席状況については、できる限り遅刻並びに無断欠席はしないこと。欠席する場合は事前に欠席届を済ませておくこと。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目としては、「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」等があげられる。 ・次なるステージとしては受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その自主研究を通して地域の資源から学校教育及び生涯学習やミュージアム産業へ結びつきかけを育んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館経営論	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-瑞慶山 昇	2年	授業終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい 博物館設置の理念、組織、設備等の博物館経営に関する基礎的知識を習得することをねらいとする。	メッセージ 博物館経営全般に関して理解することは、学芸員の業務を遂行する上で重要です。講義中心の授業で、博物館経営について適宜、配布資料やスライドを利用しながら授業を進めます。新型コロナの感染状況によっては、メールやZoom等を使用して遠隔授業を行うこともあります。
	到達目標 博物館における管理・運営 等に関する事項について理解し、博物館経営全般に関する基礎的な知識を身に付けている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	博物館経営の目的と理念	
		時間外学習の内容	
	3	博物館設置の条件	授業計画を理解する
	4	博物館の施設と設備	授業内容を理解し課題に取り組む
	5	博物館の機構と組織	授業内容を理解し課題に取り組む
	6	博物館の予算と経営	授業内容を理解し課題に取り組む
	7	マーケティングと利用者調査	授業内容を理解し課題に取り組む
	8	博物館の使命と評価	授業内容を理解し課題に取り組む
	9	博物館における連携（他館・他機関・学協会 等）	授業内容を理解し課題に取り組む
	10	公立博物館の経営（直営・指定管理者・地方独立行政法人）	授業内容を理解し課題に取り組む
	11	博物館の倫理規定	授業内容を理解し課題に取り組む
	12	博物館の危機管理	授業内容を理解し課題に取り組む
	13	博物館の広報	期末レポート作成
	14	館種別博物館の企画運営	期末レポート作成
	15	海外の博物館経営	期末レポート作成
	16	授業のまとめ	期末レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。適宜、プリント（遠隔授業の場合はPDFファイル形式のデータ）等を配布する。		
	学びの手立て ・毎授業内に出题し次回の授業で提出してもらうので、出題される課題にしっかり取り組むこと。 ・授業内に出题した課題は評価後返却する（遠隔授業の場合は課題をPDFファイル等でメールを使って送受信する）。 ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・日常的に博物館や美術館 等の見学を心がけ、博物館の活動を経営論の視点で観察するように努めること。		
	評価 試験は実施せず、授業内に課す提出物等（60%）、期末レポート（40%）で評価する。 ※出欠状況については、無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講座で得た博物館経営に関する知識と、他の関連する講座で学ぶ内容を総合的に捉え学芸員の実務に関する理解を深める。
-------	---

※ポリシーとの関連性

博物館資料の保存に関わる調査、環境整備、保護措置や修復等の知識の習得、及び取扱いに関する基礎的能力を養います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料保存論	前期	土5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大湾 ゆかり	2年	講義終了後に教室及び提出する資料で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館で取り扱う「もの」資料を適切に保存する上で、資料の材質、保存環境の整備、複製作成、修復作業にいたるまで、基本となる考え方や処理方法等を紹介し、また、資料の取り扱い方や保存容器等の作成方法についても学習します。	まず、本気で学芸員になりたいのか自己確認してもらいたいと思います。自分が学芸員になった場合、どういうことをしたいのかというイメージや目標を持った上で、資料の保存に向き合ってください。そうすれば、資料保存に関する学習も必ず身につくはずですよ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資料の物理的な性質と劣化要因を理解した上で、資料保存の上で必要な手だてについて学ぶことができます。 講義内容の要点をまとめて報告する表現方法や文章作成の能力を高めます。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	博物館における資料保存の意義	提出シート1 (初回アンケート)	
	2	博物館資料の保存環境1 資料保存の諸条件とその影響 (温湿度)	提出シート2 (授業内容の復習)	
	3	博物館資料の保存環境2 資料保存の諸条件とその影響 (光・大気)	提出シート3 (以下同様)	
	4	” 生物被害とIPM (総合的有害生物管理)	提出シート4	
	5	博物館資料の保存環境3 災害の防止と対策 (火災・地震・水害・盗難等)	提出シート5	
	6	博物館見学 (常設展・その他) ※日時変更あり	レポート	
	7	資料の保全1 状態調査・現状把握	提出シート6	
	8	資料の保全2 資料の材質	提出シート7	
	9	資料の取り扱い実習		
	10	資料の取り扱い実習		
	11	資料の保全3 資料の保存処置と修復 (1) 記録資料	提出シート8	
	12	” 資料の保存処置と修復 (2) 民俗資料	提出シート9	
	13	資料の保存4 資料の複製・保護処置	提出シート10	
14	資料の保存5 資料の梱包と輸送	提出シート11		
15	文化財の保存と活用 (博物館の果たす役割について考える)			
16	試験又はレポート	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 ・石崎武志 『博物館資料保存論』 (KS理工学専門書) 2012, 講談社</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京文化財研究所編 『文化財の保存環境』 2011, 中央公論美術出版 ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『博物館実習マニュアル』 2002, 芙蓉書房出版 ・京都造形芸術大学編 『文化財のための保存科学入門』 2002, 角川学芸出版 ・沢田正昭著 『文化財保存科学ノート』 1997, 近未来社 			
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠確認は毎回行うので、遅刻・欠席は必ず届けを文書で出すこと。但し、理由もなく欠席が3分の1を越えた場合は評価は与えない。 2. 各講義の復習シートは必ず提出して採点を受けること。これによって学習状況を把握する。 3. 受講者数によっては、実習時に使う道具や材料を要することもある。 4. 実習時には、机や道具の準備等、自主的に機敏に行動すること。 5. 新型コロナウイルス感染症防止対策のため、対面授業が限定される場合は、テキストと配布資料によって自主学習に取り組み、内容の理解を深めること。質問は随時受け付ける。 			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点が60%に満たない者には、評価は与えない。 ・評価は、毎講義の出席態度、復習シート及び課題 (レポート) で50%、最終試験で50%とし、内容等を総合的に勘案して評価する。 			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	ぜひ自分が研究したいテーマを見つけて、卒業論文を書くこと。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料保存論	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤波 朋子	2年	授業終了後教室にて、及び提出課題に付記で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館における資料保存および資料の保存・展示環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目的とします。博物館で扱う資料を適切に保存するうえで基本となる考え方、保存の方法等の紹介、資料の取り扱い方や、保存容器等についても学習します。	資料を保存していくということは、実際に学芸員となった時、誰もが必ず直面することです。自分が学芸員だったら「どう保存していくか」を各々考えながらこの授業を受けてほしいと思います。
到達目標	資料の劣化要因を知り、資料の保存のための予防保存の方法を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	博物館における資料保存 基本的な考え方	プリント・課題等
	2	博物館資料の保存環境 1 温湿度-1	テキスト2. 1、プリント・課題等
	3	博物館資料の保存環境 1 温湿度-2	テキスト2. 1、プリント・課題等
	4	博物館資料の保存環境 2 光(照明)	テキスト2. 2、プリント・課題等
	5	博物館資料の保存環境 3 大気・環境	テキスト2. 3、プリント・課題等
	6	博物館資料の保存環境 4 生物被害 IPM	テキスト2. 4、プリント・課題等
	7	博物館資料の保存環境 5 災害対策	テキスト2. 6、プリント・課題等
	8	資料の保全 1 資料の科学的調査法	プリント・課題等
	9	資料の保全 2 資料の状態調査・現状把握	テキスト3. 1、プリント
	10	資料の保全 3 資料の保存処置と修復・紙資料	テキスト3. 2、プリント・課題等
	11	資料の保全 4 資料の複製・保護処置 5 資料の梱包と輸送	テキスト3. 3、プリント等
	12	資料の取り扱いと収納(実習) 1 陶磁器類資料	プリント等
	13	資料の取り扱いと収納(実習) 2 軸装資料	プリント等
	14	資料の保全 各論1 漆製品・染織品	プリント・課題等
15	資料の保全 各論2 映像資料他	プリント・課題等	
16	テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト 石崎武志『博物館資料保存論』2012, 講談社 参考文献 ①神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』2014, 武蔵野美術大学出版会 ②東京文化財研究所編『文化財の保存環境』2011, 中央公論美術出版 ③本田光子・森田稔『博物館資料保存論』2012, 一般財団法人放送大学教育振興会 ④青木豊『人文系博物館資料保存論』2013, 雄山閣 ⑤京都造形芸術大学編『文化財のための保存科学入門』2002, 角川書店 他

学びの手立て	※資料に対する理解を深めるため、実習を行う予定です。 その際、服装等の注意、道具や材料の準備を要することがありますので、連絡に従って臨んでください。 実習時には、実習の準備等を含め、積極的に行ってください。 ※授業の復習課題の提出や欠席者への資料配布等のために、Teamsを使用する予定です。 ※出欠確認を毎回行います。 公欠については履修規程の基準に合致した理由であり、欠席届を提出した場合のみ許可します。
--------	---

評価	授業参加度と講義毎の課題提出、講義内での作業に取り組む姿勢、提出課題・レポート内容とテストにより理解度を総合的に評価する。 評価配分割合…授業参加度等(テスト以外)30%・テスト70% ※授業を5回を超えて無断欠席した場合はテスト受験を認めません。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業内で学習することは、ごく基本的な事項になります。 履修が終わっても、各単元について参考文献等に当たったり、各自で積極的に博物館展示を見学することで、学芸員としての業務に当たる際に必要となる基礎知識の定着のために、研鑽を積むようにしてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

博物館学芸員資格取得科目で、博物館の基本を理解するための「基礎科目」として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料論	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館資料に関する知識や取り扱いの心得を学ぶとともに、博物館の調査研究活動について理解し、博物館資料に関する基礎的知識を養う。	【実務経験】博物館における実務経験を活かして、実際に現場で行ってきた事例に即して、収集・整理・保管等に関する基礎的知識や理論・方法について講義します。

到達目標	博物館の資料の考え方を学び、学芸員としての社会的責務を理解できる。博物館が扱う資料について、その意味を理解できるようにする。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	博物館資料とは？	関連資料を配布するので読むこと
	3	博物館資料の種類と分類	関連資料を配布するので読むこと
	4	博物館資料の収集	関連資料を配布するので読むこと
	5	博物館のコレクションポリシーについて（各自課題に取り組むこと）	各自課題提出
	6	博物館資料の受け入れ	関連資料を配布するので読むこと
	7	資料受け入れ原簿の作成（実習）	各自課題提出
	8	博物館資料の取り扱いと保管・管理	関連資料を配布するので読むこと
	9	博物館資料の取り扱い	各自課題提出
	10	自然史資料の取り扱いについて	関連資料を配布するので読むこと
	11	博物館資料の公開	関連資料を配布するので読むこと
	12	博物館資料の活用	関連資料を配布するので読むこと
	13	博物館資料の修復と製作	関連資料を配布するので読むこと
	14	博物館と地域と市民	関連資料を配布するので読むこと
15	まとめ	これまでの配付資料を読むこと	
16	レポート（博物館資料を見学し展示環境等を調べる）	各自課題に取り組むこと	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。 参考文献①伊藤寿朗1993年『市民のなかの博物館』吉川弘文館。②大学博物館学講座協議会西日本部会編2012年『新時代の博物館学』芙蓉書房出版。③有元修一他編1999年『博物館資料論』樹村房。④青木豊2012年『人文系博物館資料論』雄山閣。

学びの実践	学びの手立て
	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「博物館学概論」を受講していると理解が早い。受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。

学びの実践	評価
	小テスト・課題40%、期末課題40%。平常点20%。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	学芸員の視点から広く情報を収集し、展示会を見学するなど多くの博物館資料に触れること。 関連科目としては「博物館資料保存論」「博物館展示論」「考古学概論2」。上位科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館情報・メディア論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) またはメール：huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館や美術館に求められるものは、まず、鑑賞の場・空間の提供である。そして、歴史や芸術、文化を教育する場の提供でもある。その2つの効果的な提供（鑑賞と教育）を実施するには「伝える」という手法が目的別に必要になる。そのため、メディアの効果・効率のよい利用法を習得することは不可欠である。	コロナ禍であるが学芸員資格科目の1つであり、必修科目です。遠隔授業で実施しますので、TeamsかZoomの環境を各自で整えておくようにして下さい。学芸員においても視聴覚技術を習得すると同時にICTに関する知識を習得しなければならないので、情報技術に関心を持って欲しい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館におけるメディア利用の有効性とその役割を説明することが出来る。 2. 博物館などで利用されているデータ管理やアーカイブシステムについて説明することが出来る。 3. 知的財産や個人情報の取り扱いについて説明することが出来る。 4. 授業で学んだ知識を企画書作成に活かすことが出来る。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	授業の内容確認とメディアの変遷	1回：メディアの変遷を事前学習	
	2	メディアとは何か、情報とは何か	2回：メディアの変遷を事前学習	
	3	メディアとは何か、情報とは何か	3回：メディアの変遷を事前学習	
	4	博物館におけるメディアの意義、情報の意義	4回：メディアの変遷を事前学習	
	5	情報教育の意義と重要性	5回：メディアの変遷を事前学習	
	6	博物館活動において情報化の役割	6回：メディアの変遷を事前学習	
	7	博物館の機能と扱う情報（データベース化とドキュメンテーション保管）	7回：保存法について事前学習	
8	博物館の機能と扱う情報（デジタルアーカイブの現状と課題）	8回：保存法について事前学習		
9	博物館における情報発信と管理（インターネットの活用と問題点）	9回：ネット活用法を事前学習		
10	博物館における情報発信と管理（メディア制作の目標設定と評価法）	10回：問題解決法を事前学習		
11	情報機器の活用（必要とされる知識と技術）	11回：問題解決法を事前学習		
12	コミュニケーションを支えるICT	12回：問題解決法を事前学習		
13	知的財産権（著作権と特許）、個人情報保護（肖像権）、権利処理の方法	13回：知的財産について事前学習		
14	企画作成書のノウハウ	14回：企画書制作の事前調査		
15	企画作成書のノウハウ	15回：企画書制作の事前調査		
16	メディアを取り入れた企画書作成（博物館で可能な企画を立案）	16回：企画書制作の事前調査		
実践	テキスト・参考文献・資料など	講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。 博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、 情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など		
学びの手立て	様々な博物館や美術館を見学し、展示方法にどのようにメディアが効果的に利用されているを紹介する。			
評価	授業の振り返りレポート70%、最終課題である企画書作成（30%）の内容が授業で学んだ10項目に沿って作成されているかで評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年生になると博物館や美術館、資料館などで実習に入ります。その実習で授業で学んだことを実際の現場で活かすことができ、学芸員としての知識と技術が身につく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館展示論	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-瑞慶山 昇	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 博物館の展示について学び、展示に関する専門的知識と実践能力を身につけることをねらいとする。	メッセージ 博物館の展示は、資料の収集・保管とならぶ博物館の主要な機能であり、博物館が社会の中で有意義な存在であるために、展覧会開催は不可欠な事業です。本講座を通して展覧会を作る専門的な知識を身につけます。新型コロナの感染状況によっては、メールやZoom等を使用して遠隔授業を行うこともあります。
	到達目標 ・展示の理念、役割、歴史に関して理解している。 ・展示の形態、プロセス、評価について理解し説明することができる。 ・展示技術に関する基礎的な知識を習得し、展示を企画することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業計画を理解する
	2	博物館展示の役割	授業内容を理解し課題に取り組む
	3	日本の展示の歴史	授業内容を理解し課題に取り組む
	4	展示の諸形態	授業内容を理解し課題に取り組む
	5	展示評価	授業内容を理解し課題に取り組む
	6	展示プロセス	授業内容を理解し課題に取り組む
	7	展示技術（動線計画）	授業内容を理解し課題に取り組む
	8	展示技術（展示環境）	授業内容を理解し課題に取り組む
	9	展示技術（展示照明）	授業内容を理解し課題に取り組む
	10	展示技術（展示ケース）	授業内容を理解し課題に取り組む
	11	展示技術（レプリカとジオラマ）	授業内容を理解し課題に取り組む
	12	展示技術（展示サインデザイン）	授業内容を理解し課題に取り組む
	13	展示技術（展示解説）	期末レポート作成
	14	展示技術（広報と展示図録）	期末レポート作成
15	展示技術（来館者調査）	期末レポート作成	
16	授業のまとめ	期末レポート作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。適宜、プリント（遠隔授業の場合はPDFファイル形式のデータ）等を配布する。		
	学びの手立て ・毎授業内に課題し次回の授業で提出してもらうので、出題される課題にしっかり取り組むこと。 ・授業内に課題した課題は評価後返却する（遠隔授業の場合は課題をPDFファイル等でメールを使って送受信する）。 ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・日常的に博物館や美術館等の見学を心がけ、博物館の活動を展示論の視点で観察するように努めること。		
	評価 試験は実施せず、授業内に課す提出物等（60%）、期末レポート（40%）で評価する。 ※出欠状況については、無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講座で得た博物館展示に関する知識と、他の関連する講座で学ぶ内容を総合的に捉え学芸員の実務に関する理解を深める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化史 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真久田 巧	3年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球・沖縄の歴史、文化をモノ資料（舞踊、音楽、彫刻、絵画、工芸、写真など）を通して学び、その背景となる文化、経済、社会構造、さらに人々の死生観を考える。造形意匠を考察し、琉球文化を探究する。	新聞記者生活30年で知り得たことをざっくばらんな形で話すことでこれまで学校では学んだことのない「沖縄の文化」について考えるきっかけにする。社会に出て県内外におけるいろいろな出会いの局面で役立つ沖縄についての知識、教養を深める。科目名は「沖縄の文化と芸術～記者生活30年で知り得たこと～」とできる限り音と映像を使う。
到達目標	これまで学校では学んだことのない「沖縄の文化」について考えるきっかけにする。社会に出て県内外におけるいろいろな出会いの局面で役立つ沖縄についての知識、教養を深める。	
前期では、	①琉球芸能について歴史を追って説明することができる。 ②琉球音楽について説明することができる。 ③組踊について説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 授業全体の説明	自己のアイデンティティを考える
	2	古典女踊りを味わう 「かせかけ」「伊野波節」「諸屯」	古典女舞踊を調べる
	3	雑踊り復興運動 「南洋浜千鳥」など	古典女舞踊を調べる
	4	創作舞踊を考える 「糸満乙女」「渡んじゃー舟」など	沖縄における創作舞踊を調べる
	5	組踊を鑑賞する 「執心鐘入」など	組踊の歴史、背景を調べる
	6	三線と古典音楽 「大昔節から端節まで トンプソンの試み」	三線について調べる
	7	矢野輝雄✕宮城美能留論争の残したもの	沖縄の古典音楽を調べる
	8	振り返り	沖縄の古典音楽を調べる
	9	「手水の縁」は平敷屋朝敏作か 池宮正治説を中心に	沖縄の古典音楽を調べる
	10	沖縄芝居の現状と課題 棒しばり、こわれた南蛮壺など	沖縄芝居を調べる
	11	民俗芸能の宝庫 豊年祭、種取り祭、ハーリー	民俗芸能と祭りや祭祀を調べる
	12	八重山芸能を概観する 琉球芸能との違い	八重山芸能を調べる
	13	沖縄のパレエ 南條喜久子「あこうの木物語」	沖縄パレエを調べる
	14	沖縄ジャンジャンの果した役割	沖縄ジャンジャンを調べる
15	振り返り	修得した知識を振り返る	
16	最終試験		

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に使用しない。必要な資料などを配布する。参考文献、資料などは授業の中で紹介する。

学びの手立て
 日頃から沖縄に関する舞踊、音楽、芸術などに関心を持ち、新聞や雑誌、博物館や美術館に足を運ぶ習慣を身につける。

評価
 出席やテスト、提出課題などを総合的に鑑み、評価する。
 課題やテスト（80%）、平常点（20%）で評価する。
 欠席は5回以上は「不可」

次のステージ・関連科目
 文化史IIを継続して受講することを勧める。

※ポリシーとの関連性 社会文化学科が掲げる沖縄や南島地域に関する基本的な知識を習得するための導入科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化史II	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真久田 巧	3年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 琉球・沖縄の歴史、文化をモノ資料（舞踊、音楽、彫刻、絵画、工芸、写真など）を通して学び、その背景となる文化、経済、社会構造、さらに人々の死生観を考える。造形意匠を考察し、琉球文化を探究する。	メッセージ 新聞記者生活30年で知り得たことをざっくばらんな形で話すことでこれまで学校では学んだことのない「沖縄の文化」について考えるきっかけにする。社会に出て県内外におけるいろいろな出会いの局面で役立つ沖縄についての知識、教養を深める。科目名は「沖縄の文化と芸術～記者生活30年で知り得たこと～」とできる限り音と映像を使う。
	到達目標 これまで学校では学んだことのない「沖縄の文化」について考えるきっかけにする。社会に出て県内外におけるいろいろな出会いの局面で役立つ沖縄についての知識、教養を深める。 前期では、 ①戦後沖縄の美術・工芸の変遷を説明することができる。 ②沖縄の近現代の音楽について説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 授業全体の説明	文化史IIのシラバスを確認する。
	2	沖縄の戦後美術（前期の続き）	戦後美術について調べる
3	県立美術館建設運動を再考する アウト・オブ・ジャパン	県立美術館建設運動について調べる	
4	街と彫刻展が喚起したもの	沖縄の彫刻について調べる	
5	環境と美術を考える 渡名喜元俊 百名ビーチ展	沖縄の美術について調べる	
6	沖縄写真史を概観する 沖展、東松照明、比嘉康雄、	沖縄の写真について調べる	
7	沖縄の工芸 やちむんの世界を見るI	沖縄の工芸について調べる	
8	沖縄の工芸 やちむんの世界を見るII	沖縄の工芸について調べる	
9	紅型の復興 城間栄喜 玉那覇有功	紅型の歴史について調べる	
10	芭蕉布物語 平良敏子の功績	平良敏子について調べる	
11	漆芸復興と紅房の功績 生駒弘と柏崎栄助	漆芸復興と紅房を調べる	
12	金細工の世界を見る 又吉健次郎	金細工について調べる	
13	クラシック戦後史 メサイヤ、第九から県立芸大へ	沖縄戦後クラシックについて調べる	
14	ジャズの世界 ライブハウス、野外フェス	沖縄のジャズを調べる	
15	フォークソングの歴史 沖縄フォーク村	沖縄フォーク村を調べる	
16	最終試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に使用しない。必要な資料などを配布する。参考文献、資料などは授業の中で紹介する。		
	学びの手立て 日頃から沖縄に関する舞踊、音楽、芸術などに関心を持ち、新聞や雑誌、博物館や美術館に足を運ぶ習慣を身につける。		
	評価 出席やテスト、提出課題などを総合的に鑑み、評価する。 課題やテスト（80%）、平常点（20%）で評価する。 欠席は5回以上は「不可」		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄に関する美術、工芸、舞踊、音楽などの科目を継続して受講することを勧める。
-------	---